

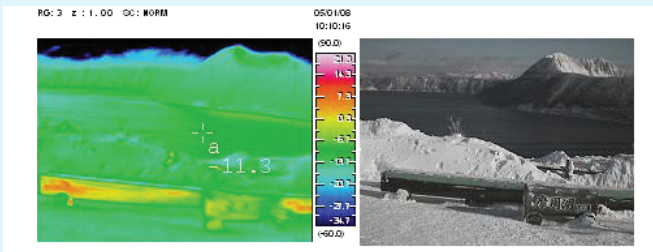


北見工業大学

学報

平成17年1月 事務局総務企画課発行 第207号

ウインター・サイエンスキャンプ「雪と氷の世界」を実施



(関連記事12ページに掲載)

Kitami Institute of Technology

目 次

年頭挨拶	これからが本番	3
入 試	平成17年度推薦入学試験の実施	5
	平成17年度大学入試センター試験の実施	5
研究助成	NEDO技術開発機構平成16年度産業技術研究助成金交付決定	5
	平成16年度民間等との共同研究の受入状況	6
	平成16年度受託研究の受入状況	6
	平成16年度奨学寄附金の受入状況	7
人 事	人事異動	8
	新任者紹介	8
	海外渡航	8
国際交流	インターナショナルコーヒーアワーを開催	9
	外国人留学生スキー研修を実施	10
諸 報	業務監査を実施	11
	知的財産セミナーを開催	11
	ウインター・サイエンスキャンプ「雪と氷の世界」を実施	12
	外国人研究者の受入れ	12
規 程	国立大学法人北見工業大学奨学寄附金取扱規程の一部を改正する規程 (北工大達第1号)	13
日 誌	12月・1月	14

* 規程については2月9日制定分まで掲載しました。

＝年頭挨拶＝

これからが本番

学長 常本 秀 幸

新年あけましておめでとうございます。

さて、昨年は「災」という字がその年を表す漢字になりましたが、正に世界中が大きな災害等に見舞われ、人的にも物的にも大きな被害を受けた年でした。特に自然の災害、その中でも台風、地震などの巨大化は、地球が文明社会のおごりに怒りをぶつけているのではないかとさえ思えます。新潟県中越地震などの国内災害、スマトラ沖地震とそれに伴って起こったインド洋大津波などで被害にあわれた方々に対し深く哀悼の意を表したいと思えます。

新年ですので、昨年を振り返りながら今年の抱負について少し話をさせていただきます。まず、昨年ですが、1月に記録的な大雪でセンター試験の再試験が行われました。6月には学生の痛ましい交通事故死、9月には台風18号による被害など、本学でも「災」がありました。法人化に向けた大作業が最も印象に残っています。規程改正などの資料の山、中期計画・中期目標の変更作業、任期制に関する協議、労使協議に基づく就業規則の策定、予算配分方法の基本方針など多くの課題がありましたが、皆様の理解と努力によって無事法人に移行することができました。法人化後は少し余裕があるかと思いましたが、新しい教員評価制度の協議、平成17年度予算の獲得に向けた資料作成など、息を抜く暇がありませんでした。そんな中で、教育COEの一つである「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」に採択されたことは明るい話題でした。また、その他にも経済産業局のコンソーシアム事業に3件、NEDOの若手支援事業に2件採択されるなど、科研費では他の国立工学系大学の中で低い位置でしたが、社会貢献型予算で本学の存在感が示せたことを喜んでおります。

次に、皆さんの関心の高い平成17年度の予算ですが、待望の1号館改修が始まります。第一期工事は主として共通講座及び講義室の改修になります。学生の憩いの場を中央に設置するなど講義室の環境整備が行われますので期待してください。移転あるいは代替部屋の提供など皆様にご協力いただくこととなりますがよろしくお願ひいたします。法人化後は従来の概算要求に相当する項目は特別教育研究経費として審査されることになりました。平成16年度は法人移行の関連もあって予想以上の配分がありました。平成17年度は例年程度に減額されております。一方、運営費交付金が約2%減少しますので、平成17年度の学内予算配分は相当厳しくなると考えています。経費の削減などに、より一層の努力をお願いいたします。



このように予算面では厳しい状況ですが、大学改革は中期計画に従って前進させる必要があります。平成17年度に取り組みたい事項について、まず教育面から説明させていただきます。一つは、先のFD研修会でも説明しましたが、教育の質を高めるために入学生の学力の底上げを行いたいと思えます。現在、本学の入試難易度は国立大学で最も低いグループに入っていますが、少しでも向上させるよう、中期計画ではブロック入試を計画しています。しかし、早期に複数学科が志望できる入試制度を検討する必要があると思っております。また、大学院進学率が

向上しておりませんので、進学の意義などについて3年生と懇談を行うことも予定しております。更に、高専の専攻科学生の推薦制度なども取り組む必要があります。なお、平成17年度からは、英語教育の充実を含めた共通講座のカリキュラム改正が計画されておりますが、移行時の混乱が起きないように関係者の協力をお願いいたします。

研究面では、重点分野のプロジェクト研究を推進するため、現在のセンター組織を中核に仮想センターを設置し、内外からその特徴がわかるようにしたいと思っています。6年後の評価では勝ち組と負け組が出ると言われておりますが、研究面では特色が出せるかどうかの評価の重要な要素になると思っています。現状の組織を尊重しながらも、次年度以降の人事計画などで特色が出せるよう議論させてもらいます。なお、大学の外部資金の拡大は研究組織の強化につながりますが、同時に間接経費・オーバーヘッドなどで大学の経営にも貢献してもらえます。運営費交付金は更に厳しくなりますので、今後、外部資金のオーバーヘッドを増額することも課題と考えております。そのような状況になりましたらぜひご理解をいただきたいと思っております。

本年度、本学は短期大学創設から数えて45周年を迎えます。一つの区切りですので、記念になる行事を進めるべく計画を始めております。

特に本学同窓会には、この記念すべき年に、今後設立が予定されている大学後援会に強力な支援をしていただくようお願いしております。この大学後援会組織は、市の商工会議所が中心となって市民も参加できる体制を作ってもらよう働きかけをしております。

本年も多くの計画を立てておりますが、それらを達成するためには皆さんの協力が不可欠です。今年は酉年、人事係に調べてもらいましたら本学には29人の酉年生まれの方がおりました。24歳になる方が1人、36歳6人、48歳17人、そして還暦を迎える方が7人おられます。酉年生まれの人は先見の明があり、その予知的な思考と行動力で時代を先取りするそうです。ぜひ本学の発展にも知恵を貸してください。法人化後、学内に新しい風が吹き始めているのを感じていますが、本学のような小さな大学は、組織的な活動が今後の発展の鍵を握っていると思っています。そのためには、教員にはこれまでの「個人中心型」から「組織中心型」の教育研究活動にシフトすることをぜひお願いいたします。また、職員には「経理から経営に」を念頭に、教育研究の支援をさらに強化してもらうため、「定形型業務」から「企画提案型業務」形態に変革することを期待しています。

法人化への取組はこれからが本番です。健康に留意され、本学の発展にご尽力いただくことをお願い申し上げ年頭の挨拶といたします。

= 入試 =

(入 試 課)

平成17年度推薦入学試験の実施

平成17年度推薦入学試験は、小論文及び面接による選抜が12月3日(金)に実施され、12月15日(水)に合格発表が行われました。

各学科別の合格者等については下表のとおりです。

学 科 名	募集人員	志願者	合格者
機械システム工学科	12	25	18
電気電子工学科	8	11	11
情報システム工学科	10	19	12
化学システム工学科	12	9	9
機能材料工学科	6	9	9
土木開発工学科	12	22	15
計	60	95	74

平成17年度大学入試センター試験の実施

平成17年度大学入試センター試験が、1月15日(土)、16日(日)の両日実施されました。

本学会場の志願者は昨年度より28人減の688人となりました。

= 研究助成 =

N E D O 技術開発機構平成16年度産業技術研究助成金交付決定

(研究協力課)

所 属	職 名	氏 名	研 究 課 題	交付金額
機械システム工学科	助教授	閻 紀旺	単結晶ゲルマニウムを基板とした高精度赤外線フレネルレンズの超精密切削加工技術の開発	千円 25,116

平成16年度民間等との共同研究の受入状況

平成17年1月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究代表者	研 究 題 目	民間機関等名
土木開発工学科	教 授	内島 邦秀	堆積傾向にある河川に設置された取水施設 付近の堆積防止対策工の検証	和 光 技 研 (株)
機械システム工学科	教 授	二俣 正美	撥水性溶射皮膜の応用に関する研究	北 辰 土 建 (株)
情報システム工学科	助教授	吉田 秀樹	周波数解析技術による遠隔監視システム	北見情報技術(株)
機能材料工学科	教 授	高橋 信夫	混合ガスハイドレートの結晶構造解析による ガスハイドレート生成・分解過程における ゲスト分子の挙動の研究	三 井 造 船 (株)
地域共同研究センター	助教授	有田 敏彦	フラット型ソーラーサーマルコレクターの 集熱性能評価研究	(株)ダイナックス
機能材料工学科	助教授	宇都 正幸	オホーツクにおけるホタテウロのバイオ処理 による肥料化試験に関する調査研究	(財)オホーツク地 域 振 興 機 構
電気電子工学科	助教授	熊耳 浩	オホーツクブランド形成およびインターネ ットによる流通拡大に関する共同研究	(財)オホーツク地 域 振 興 機 構

平成16年度累計 83件

平成16年度受託研究の受入状況

平成17年1月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研究担当者	研 究 題 目 及 び 研 究 期 間	委託機関	所要経費 ^円
電気電子工学科	教 授	野矢 厚	太陽電池用高純度シリコンの新製法の開発 平成17年1月～平成17年3月	(独)科学技 術振興機構	2,500,000

平成16年度累計 12件

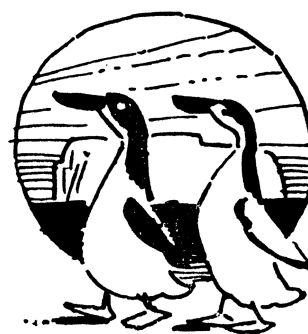
平成16年度奨学寄附金の受入状況

平成17年1月31日現在

(研究協力課)

所 属	職 名	研 究 者	寄 附 目 的	寄 附 者	寄附金額
情報システム工学科	助教授	原田 康浩	工学研究	原田 康浩	500,000 ^円
化学システム工学科	教 授	鈴木 勉	木炭の新しい利用法	(株)福地工業	100,000
土木開発工学科	助教授	高橋 清	工学研究のため	(株)ドーコン	630,000
情報システム工学科	助教授	原田 康浩	研究助成のため	(財)ホソカワ粉体工学振興財団	700,000
機能材料工学科	教 授	松田 剛	アルカン異性化触媒の研究・開発に関する助成	出光興産(株)中央研究所	1,000,000
土木開発工学科	助教授	早川 博	工学研究のため	(株)アルファ水工コンサルタンツ	200,000
電気電子工学科	助教授	柏 達也	FDTD法の電磁界シミュレーション技術に関しての指導・助言の享受	(株)本田技術研究所 栃木研究所	1,500,000
	学 長	常本 秀幸	北見工業大学における学術振興・国際交流等事業に対する助成のため	北見工業大学学術振興・国際交流等事業を支援する会	1,703,765
電気電子工学科	助教授	菅原 宣義	学術研究助成のため	森永乳業(株)装置開発研究所	300,000
化学システム工学科	助教授	高橋 行雄	工学研究のため	米田 徳彦	500,000

平成16年度累計 77件



=人事=

人 事 異 動

(総務企画課)

○大学発令

発令年月日	現 職 名	氏 名	異 動 内 容
17. 1. 1	(新規採用)	尾河 康典	総務企画課総務・企画係

新 任 者 紹 介

○総務企画課事務職員に ^{おがわ やすのり} 尾河 康典 氏

昭54. 12. 5生

- 平14. 3 北星学園大学経済学部卒業
 16. 6 北海道地区国立大学法人等
 職員採用第一次試験合格 (事務)
 17. 1 北見工業大学総務企画課



海 外 渡 航

○外国出張

所 属	職 名	氏 名	渡 航 目 的 及 び 渡 航 先 国	期 間
情報システム工学科	教 授	山 田 浩 嗣	パナルベ方程式と特異点についての研究 打合せ (大韓民国)	16.12. 5~ 16.12.11
機械システム工学科	教 授	小 林 道 明	塑性国際シンポジウム2005にて研究発表 (アメリカ合衆国)	17. 1. 3~ 17. 1.10
機械システム工学科	教 授	大 橋 鉄 也	塑性国際シンポジウム2005にて研究発表 (アメリカ合衆国)	17. 1. 2~ 17. 1.11

○海外研修

所 属	職 名	氏 名	渡 航 目 的 及 び 渡 航 先 国	期 間
土木開発工学科	助 教 授	高 橋 清	TRB交通研究学会年次講演会出席 (アメリカ合衆国)	17. 1. 9~ 17. 1.13

= 国際交流 =

インターナショナル コーヒーアワーを開催

(研究協力課)

国際交流センターでは、1月11日(火)新しい試みとして、より一層国際交流を図り、異文化理解を深める機会を増やしていくため、「インターナショナル コーヒーアワー」を開催しました。

この集いは、本学に在学している外国人留学生・家族と本学関係者並びに北見市民など、誰もが気軽に参加できる、お茶とお菓子の小さな集いです。

第1回目の今回は本学総合研究棟3階のリフレッシュルームで開催しましたが、当初の予想を大きく上回る50人を超える方が参加し、国際交流センターはうれしい悲鳴を上げていました。

今回はお正月らしくお餅も用意して「お茶とお話コーナー」、「書き初めコーナー」、「双六コーナー」に分かれ、約1時間30分の交流を行いました。

書き初めコーナーでは、初めて筆を持つ留学生も多かったのですが、大変な人気で順番を待つ人ができるほどでした。中国を除いて今まで筆に全く縁の無かった国の留学生が、意外に達筆だったのにも驚かされました。作品の一部は、現在インターナショナルラウンジ前の黒板に展示してありますので、どうぞご覧ください。

また、最初はルールがわからずとまどっていた「北海道市町村双六」も、途中からは2面用意したにもかかわらず、こちらも順番待ちとなるなど盛況でした。

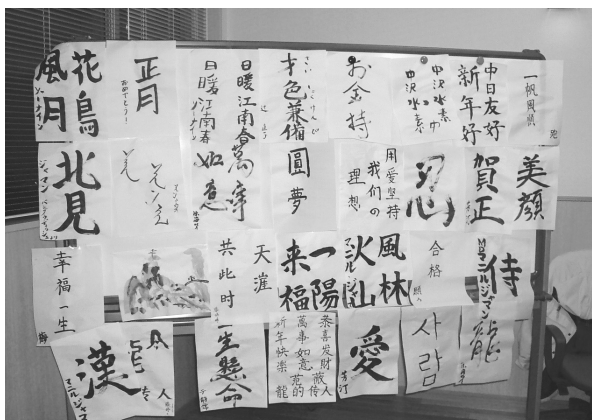
この集いは今後も月一回のペースで実施いたしますが、この小さな交流が大学行事等の大きな交流との相乗効果により、本学の国際交流・異文化理解が前進することを期待したいと思います。みなさん是非気軽においでください。



書き初めを楽しむ参加学生



出来上がった作品を披露する留学生



見事な作品の数々

外国人留学生スキー研修を実施

(研究協力課)

1月13日(木)外国人留学生とその家族を対象に、端野町のメビウススキー場において、「外国人留学生スキー研修」を実施しました。

この日が、スキー初体験となった留学生が多い中、約40名が能力別に3グループにわかれ、4名の指導員によって、それぞれ基礎レッスンを受けました。

初めのうちは、自力で立ち上ったり、止まるのにも苦労していましたが、昼過ぎには、ボランティアの日本人学生の協力もあり、全員がリフトに乗りゲレンデをゆっくりではありましたが、滑り降りることができるまでに上達しました。当日の天候は、あいにくの雪となりましたが暖かく、留学生は疲れも忘れ、終了予定時間

間際までスキーを楽しんでいました。

帰りのバスの中でも、スキーの話題でいっぱい、すっかりウインタースポーツを満喫した様子でした。



= 諸報 =

業務監査を実施

(総務企画課)

12月22日(水)、土岐監事及び岩城監事による業務監査(平成16年12月期)が本学第3会議室を会場に実施されました。

業務監査は、4半期ごとに実施することとしており、平成16年6月期(6月30日(水)実施)、平成16年9月期(10月12日(火)、13日(水)実施)に続き、今回で3回目の実施となりました。

今回の業務監査では、既に定例となった「年度計画に基づく行事、業務等の実施状況」及び「諸会議の開催状況」について資料により説明を行い、それに対する監事からの意見・質問等を伺う形式で実施しました。

知的財産セミナーを開催

(研究協力課)

去る12月21日(火)教職員・学生を対象として、西澤国際特許事務所長の西澤利夫氏による知的財産セミナーを開催しました。

昨年8月31日に西澤氏をお招きし同セミナーを開催しており、第2弾となる今回は「研究論文から特許明細書へ」と題して、弁理士として西澤氏が手がけ、既に特許化されたものの中から数点を実例としてあげ、論文と特許明細書を対比させ、特許明細書を作成する上での注意事項等、より実践的な内容でわかりやすく講演を頂きました。

出席した教職員・学生からは、多くの質問が出され、法人化以降の国立大学における知的財産権の考え方を基礎から学ぶ機会となり、より意識の高いものとなった意義のある講演会となりました。



ウインター・サイエンスキャンプ「雪と氷の世界」を実施

(教 務 課)

1月7日(金)から9日(日)までの2泊3日の日程で、文部科学省主催のウインター・サイエンスキャンプを実施しました。

全国各地から参加した高校生たち20人は、「雪と氷の世界～雪結晶の仕組みから燃える氷・メタンハイドレートまで～」をテーマに本学の屈斜路研修所を主会場として、南極体験記等の講義及び赤外カメラを使用し摩周湖や硫黄山を観測したり、ポンポン山にかんじきをはいて登山するなど寒冷地ならではの実験や実習を

体験しました。

また、最終日は大学へ戻り、燃える氷として注目されているエネルギー資源「メタンハイドレート」についての講義及び各講座内容について班毎にまとめの発表が行われました。

参加者は全員が道外の高校生で、厳しい冬の北海道と自然の美しさを科学的に体験することができ、チャンスがあれば再度このような事業に参加したいなどの感想も出されました。



開講式において挨拶する常本学長



かんじきをはいてポンポン山を探索する高校生たち

外国人研究者の受入れ

(研究協力課)

氏 名 国籍・年齢	受入学科 職名・氏名	研 究 題 目	受入期間
(Mohd. Hasan Ali) モハマド ハサン アリ バングラデシュ・33才	電気電子工学科 教授・田村 淳二	超伝導エネルギー貯蔵装置による風力発電機を含む電力系統の安定化に関する研究	16.11.19～ 18.11.18

= 規 程 =**国立大学法人北見工業大学奨学寄附金取扱規程の一部を改正する規程**

平成17年2月9日
北工大達第1号

国立大学法人北見工業大学奨学寄附金取扱規程（平成16年北工大達第138号）の一部を次のように改正する。

第8条を第9条とし、第7条を第8条とし、第6条を第7条とし、第5条の次に次の1条を加える。

（職員が寄附金を受入れたときの取扱い）

第6条 職員は、第2条各号に掲げる経費に充てる寄附金を受入れたときは、当該寄附金を本学に寄附するものとする。

附 則

この規程は、平成17年2月9日から施行し、平成16年4月1日から適用する。

改正理由

奨学寄附金のうち教員等個人あて寄附金について適切な経理を行うための所要の改正

= 日誌 =

(総務企画課)

- | | | | |
|-------|--|------|---|
| 12月3日 | 平成17年度推薦入学試験 | 1月4日 | 仕事始め |
| 4日 | リーダーシップトレーニングセミナー (～5日) | | 新年交礼会 |
| 6日 | 企画運営会議
推薦入学者選抜実施委員会
第6回産学協同公開講座 | 7日 | 教務委員会
ウインター・サイエンスキャンプ (～9日) |
| 7日 | 第11回教育研究評議会 | 11日 | 企画運営会議
集中講義期間 (～13日)
大学入試センター試験室内・室外監督員説明会
インターナショナルコーヒアワー |
| 8日 | 情報システム運営委員会 | | 第8回産学協同公開講座 |
| 9日 | 国際交流委員会
教務委員会 | 12日 | 第12回教育研究評議会
地域共同研究センター特別講演会 |
| 10日 | 第5回経営協議会
第9回役員会 | 13日 | 外国人留学生スキー研修 |
| 13日 | 企画運営会議
第7回産学協同公開講座 | 15日 | 大学入試センター試験 (～16日) |
| 14日 | 入学試験実施委員会
入学者選抜委員会 | 17日 | 企画運営会議 |
| 15日 | 第6回教授会
第5回大学院研究科委員会
平成17年度推薦入学試験合格発表
編入学試験 (第2次) 合格発表 | 18日 | 第9回産学協同公開講座 |
| 17日 | 就職ガイダンス | 19日 | 第6回大学院研究科委員会 |
| 20日 | 冬季休業日 (～1月14日)
4年次再試験 (～24日) | 23日 | TOEIC公開テスト |
| 21日 | 知的財産セミナー | 24日 | 地域共同研究センター特別講演会 |
| 22日 | 業務監査
安全衛生委員会 | 25日 | 教務委員会 |
| 28日 | 仕事納め | 26日 | 安全衛生委員会 |

北見工業大学学報 第207号 平成17年1月発行
 国立大学法人北見工業大学
 事務局総務企画課
 〒090-8507 北見市公園町165番地
 TEL: (0157) 26-9116
 FAX: (0157) 26-9122
 E-mail:soumu05@desk.kitami-it.ac.jp
 本報は、インターネットでもご覧いただけます。
<http://www.kitami-it.ac.jp/issue/gakho.htm>



再生紙使用